

シカ被害対策協定を締結 農林業への被害防止に期待

3月19日、小林地区有害鳥獣駆除対策協議会、宮崎森林管理署都城支署と市はシカ被害対策協定を締結しました。農林業や生態系の被害防止を図ることが目的。同協議会の児玉厚夫会長は「官民一体で鳥獣対策を進めていけることをうれしく思う。協力して課題解決を目指しましょう」とあいさつしました。



左から前杉成美支署長、肥後市長と児玉会長。今後、協議会へのくくりわなの貸与や入林手続きの簡素化などが行われる予定です



講演する木原さん。そのほか、事例発表やパネルディスカッションが行われ、来場者は福祉に関する理解を深めていました

「地域で助け合える体制を」 ご近所福祉を考えるつどい

3月17日、ご近所福祉を考えるつどいが文化会館で開催されました。「ご近所福祉とは？」の演題で住民流福祉総合研究所代表の木原孝久さんが講演。地域の実態把握をするためのマップ作りを提案し、「近所でも助け合える体制を作ることが大切」と訴えていました。

経済同友会が地方創生の 実態調査のため来市

2月28日、(公社)経済同友会の地方創生実態調査ワーキンググループが、市の地方創生の取組を視察するために来市しました。てなんど小林総合戦略や観光DMO事業についてヒアリングを実施。その後、TENAMUビル、生駒高原やすきむらんどなど市内施設を視察しました。



TENAMUビル訪問の様子。市も含めた全国の自治体での調査内容は、政策提言など経済同友会の活動に反映されます



コース各地にはおもてなしを設置し、参加者と交流。なお、大会はスポーツ振興くじの助成金を受け開催されました

霧島連山の絶景を眺めながら ウォーキング楽しむ

2月24日、25日に第20回みやざきツデーマーチこばやし霧島連山絶景ウォークを開催しました。今年から会場を市中央ふれあい広場に移し、2日間で延べ2,122人が参加。30キロから5キロまでの8コースを、参加者は霧島連山を眺めながら、思い思いのペースで歩きました。

取り組みを紹介します

きずな協働体 今月は、西小林地区

地域の拠点がリニューアル

長い間、西小林地域の拠点として活用してきた「西小林地区公民館(旧榎原公民館)」がこのほどリニューアルしました。市の元気なまちづくり支援補助金(ハード事業)を活用したもので、農産加工施設2部屋の新設や体育室にボルダリングを設置などのほか事務室、トイレの改修などを行いました。この内の1つ、

加工施設では、協議会女性部を中心に地元農産物を活用した加工品を開発し、製造・販売していきます。東京オリンピック新種目のボルダリングの設備を設置した体育室は、5月の総会以降にオープンする予定です。リニューアルした地域拠点を中心にさらに特色のある地域のまちづくりを推進していきます。



リニューアル後の外観

加工施設を活用して地域を元気にしよう



女性部部長
大山 竹子さん

新燃岳噴火の状況を 写真やデータ使い説明

3月11日、市民ジオ講座火山講演会(霧島ネイチャーガイドクラブ主催)がKITTO小林で開催されました。火山学者の田島靖久さんが登壇し、約50人が来場。新燃岳の噴火の状況を写真や過去のデータを使い説明し、「今後も噴石などに注意してください」と講演しました。



田島さんは民間企業に所属し、東京大学地震研究所と共同で新燃岳や硫黄山などの観測、研究を行っています



こすも〜井は、宮崎牛やゴボウなどを使った牛丼で、味付けは焼肉のたれ風。「おいしい」「また食べたい」と生徒の響が進んでいました

和牛生産団体が宮崎牛寄贈 市内小中学校の給食で提供

2月27日、市内の和牛生産団体が宮崎牛234キロを寄贈しました。3月8日には、その宮崎牛を使ったこすも〜井を給食で提供。地域の和牛農家も各小・中学校を訪れ交流を深めました。和牛部連絡協議会の東梅住男会長は「子どもたちの喜ぶ顔が私たちの励みになります」と話していました。



宮崎こばやし熱中小学校 校長
はらだ ひでお
原田 英男 さん (61)



熱中小学校の第3期生を募集中です。4月から9月までの毎週第3土曜に開校。募集人数は80人です。申し込みは熱中小学校事務局（Tel 0984-48-5558）まで。また、熱中小学校ホームページからも申し込みできます。

「人」を育てることは「まち」を育てることにつながる 小林の未来の人材を育てる場に

小林
こばやしびと
Vol.75

「もういちど、7歳の目で世界を…」をコンセプトに全国7ヶ所で開校されている大人の社会塾「熱中小学校」。市では昨年4月に九州で初めて「宮崎こばやし熱中小学校」を開校した。同校で校長を務めるのが原田英男さん、61歳。東京都出身で元農林水産省の畜産部長、現在は一般財団法人畜産環境整備機構の副理事長を務めている。

訪れており、田舎のない私にとってはふるさとです。昔から小林の人たちが大好きだったので、校長を引き受けることにしました。地方創生や地域活性化を目指すにあたって、何より大切なのは人材だ。「どんな場所にも人材はいます。しかし、社会に出ると学びの場や仲間づくりの場は少ないと感じています。だからこそ、熱中小学校をそのような場にしていきます」。

「人を育てることがまちを育てることにつながる。小林の未来を担う人材を育てる場として熱中小学校を活用してほしい」。

河川パトロールなどで功労表彰

2月23日、平成29年度大淀川流域学習会で小林市河川浄化等推進員の温水正行さんと永井江美子さんに功労表彰が贈られました。10年にわたり、河川の監視やパトロールなど取り組んできたことが認められ受賞しました。



准看護学校を14人が卒業

3月2日、西諸医師会立小林准看護学校の卒業式が行われました。14人の生徒が2年間通い学んだ学舎に別れ。生徒を代表し岩本彩華さんが「人の命を預かる責任を自覚し、母校の誇りを胸に看護の道を進んでいきます」と決意を述べました。



医療と介護の連携推進を目指して

3月6日、第5回西諸地域在宅医療介護連携推進協議会が開催されました。医療、介護の関係者が活用する入院調整ルールの第1版完成報告、活動経過報告や事業計画などが提案され、今後も医療と介護の連携推進を西諸一体となり取り組むことを確認しました。



地婦連がカエルのお守りを寄贈

3月9日、市地域婦人連絡協議会が教育委員会にカエルのお守りを寄贈しました。お守りは、市内新小学1年生に配布。同会上原裕子会長は「子どもたちが事故にあうことなく無事に『帰る』という願いを込めてつくりました」と話していました。



在宅医療の推進を目指して

2月21日、西諸地域在宅医療推進研修会が開催されました。170人が来場し、鹿児島市で長年、在宅医療に携わっている五反田内科クリニック五反田満幸院長が登壇。実際の経験をユーモアを交えて話すと、会場は共感する仕草や笑顔に包まれました。



交通安全の下敷きと定規を寄贈

2月23日、県自動車整備振興会小林支部が教育委員会に交通安全の下敷きと定規を460セット寄贈しました。同会の小浦雄一理事は「子どもたちの交通安全の教育に役立てていただければ」とあいさつ。下敷きと定規は、市内新小学1年生に配布します。



小林看護医療専門学校初の卒業式

3月2日、小林看護医療専門学校の第1回卒業式が文化会館で行われました。看護科37人、医療秘書学科4人に卒業証書が渡され、看護師や医療秘書としての第一歩を踏み出しました。卒業生の8割が西諸地域の医療機関への就職が内定しています。



在宅医療と介護連携の推進に向けて

3月7日、西諸地域在宅医療介護連携講演会が開催されました。医療関係者ら220人が来場し、宮崎大学医学部吉村学教授が登壇。医療人、住民、行政が三位一体となり取り組む必要性やこれからの医療を担う若者たちの育て方を訴えていました。

